

知子園長のコラム

～心は自分自身～

目には見えないけれど、皆、一人一人に心がある。その心は、目に見えないからこそ自由。自由な心は、私達が想像もできない宇宙のような無限の広がりを持ち、時に曇り、闇を作る。また心は光となり、光る心は人の心も明るくし、取り巻く環境を温かく包み込む。目には見えないけれど、確かにある心は自分自身であり、行動という目に見える形を通して表現することができる。

日本人の「物を大切に作る心」が包むという文化となり、「真綿にくるむように…」という言葉は、温かな愛情そのものを表現している。そして「おもてなし」は、心施(心を込める・心を尽くす・心を伝える)という行動で、人も私も取り巻く人々全てが互いに喜び合い、幸せが広がる。

心は自分自身。これを森信三先生は、心身相即(しんしんそうそく)という言葉に表現された。人間は心と体を合わせ持つ心身相即的存在ゆえに、自分自身の心をシャんとさせるために体の軸である腰骨を立てることが重要であり、心と体の真の統一は、肉体に座を持つことによって可能であるとおっしゃった。常に腰骨を立てることで、ドッシリと落ち着いた心で集中力、持続力、判断力が明晰になり、心と行動が伴った実践力(主体性)が身につくのだと。そして、人を敬う心で挨拶を自分から先にする。返事は「ハイ」とはっきりし素直に心を拓く。行動の始め、心のしまりとして、履物を揃え椅子を入れることによって、人としての品格を備えると。立腰の子ども達はこの立腰と躰の三原則を、毎日の生活の中で当たり前に行い、その形の中にある精神性を心と体とで同時に察知しながら育っている。

トピックス

今年の夏の仁愛プランターはゴーヤ、ヘチマ、ひまわりを子ども達と一緒に植えました♪
今年も、見事に綺麗な緑と、元気な花の愛らしく咲き誇る姿が楽しみです♪
可愛らしいひまわりの芽を、是非お子様と一緒にのぞいてみて下さい♪



久しぶりの参観者♪

コロナ前は年間 250 名近くの「立腰教育視察」を目的とした参観者が、全国各地から訪れていました。先日、久しぶりに参観者が来園され、どの年齢の子ども達も、足元をしめて元気にご挨拶が出来る姿や、朝会や朝の集いの腰骨の立った姿に感動されていました。
★5/23: 日本武道・不二流の皆様
★6/2: 横浜の田園都市幼稚園の皆様



親が子どもと本気で向き合い

子どもの行動の裏にある心を見抜く。

子どもが自分の思い通りにならないと、自分の考えを押し付けて批判ばかりしていませんか？物事をマイナス思考で考え非難すること、口にするのは、子どもの心に毒を飲ませているようなものなのです。

- ◎欠点も裏返せば長所ということを忘れずに
- ◎子どもの心と言葉に耳を傾けて、子どもの問題行動は親自身の心の在り方と言動の反省視点であるということ素直に受け止めましょう。

【子どもの話に耳を傾けよう】

今日、少し、あなたの子どもが言おうとしている事に耳を傾けよう。
今日、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。
さもないといつか子どもはあなたの話を聞こうとしなくなる。
子どもの悩みや要求を聞いてあげよう。
どんなに些細な勝利の話も、
どんなにささやかな行いも褒めてあげよう。

おしゃべりを我慢して聞き、一緒に大笑いしてあげよう。
そして言ってあげよう、愛していると。毎晩毎晩。
叱った後は必ず抱きしめてやり、「大丈夫だ」と言ってやろう。
子どもの悪い点ばかりをあげつらっていると、
そうやってほしくないような人間になってしまう。
だが、同じ家族の一員なのが誇らしいと言ってやれば、
子どもは自分を成功者だと思って育つ。
今日、少し、あなたの子どもが言おうとしていることに耳を傾けよう。
今日、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。
そうすれば子どもはあなたの話を聞きに戻ってくるだろう。



デニス・ウェイトリー(人間行動学博士)の詩

♪仁愛家族のうた♪

～日本文化伝承として残したいもの～

茶つみ

夏も近づくと八十八夜
野にも山にも若葉が茂る
「あれに見えるは茶摘みじゃないか
あかねだすきに菅の笠」
日和つづきの今日このごろを
心のどかに摘みつつ歌う
「摘めよ摘め摘め摘まねばならぬ
摘まにゃ日本の茶にならぬ」



あめふりくまのこ

おやまに あめが ふりました
あとから あとから ふってきて
ちよろちよろ おがわが できました
いたずら くまのこ かけてきて
そうと のぞいて みました
さかなが いるかと みました
なんにも ないと くまのこは
おみずを ひとくちのみました
おててて すくって のみました
それでも どこかに いるようで
もいちど のぞいて みました
さかなを まちまち みました
なかなか やまない あめでした
かさでも かぶって しましよう
あたまに はっぱを のせました

